

# 厚生労働行政推進調査事業費補助金 (新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業) 総括研究報告書

平成28年度 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業の総合的推進に関する研究  
研究代表者 山内 和志 国立感染症研究所 企画調整主幹

## 研究要旨：

厚生労働行政推進調査事業費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業において実施する研究課題の評価及び企画の実施、研究成果や感染症に関する情報の収集・活用、研究推進の支援方法、評価方法の検討・改善について研究することで、当研究事業のより円滑かつ適切な実施と、総合的推進に資することを目的とする。また、その研究成果を新興・再興感染症対策等の行政・国民ニーズに即した感染症関連研究の一層の推進に役立てることで、新興・再興感染症等の脅威から、国民の健康や生活を守ることにつながると期待される。

## A. 研究目的

新興・再興感染症に対する迅速かつ適切な対応は、国民の健康を守る上で重要な施策の一つである。しかし、その対象となる感染症は多岐に渡っており、希少な感染症や今後の発生が想定される新たな感染症もある。このため、今後も適切な対応を行っていくためには、日頃から対応の基礎となる最新の知見を幅広く集積することが重要であり、その研究体制を確保し、対応の決定に科学的根拠を提供するための研究の推進を図っておく必要がある。

厚生労働省においては、厚生労働行政推進調査事業費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業を中心として、行政ニーズに直結した新興・再興感染症研究を推進しており、この研究事業を適切かつ効果的に実施することは、感染症対策を行う上で不可欠であり、研究課題の設定、研究者の選考、研究費の配分、研究成果の評価と研究を実施する研究者への支援を適切に行うことが求められている。

本研究課題では、新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究の企画・評価に必要な情報収集・調査を行うと共に、本研究事業において実施される研究課題について、研究代表者及び研究協力者（プログラムオフィサー：以下、「PO」という）により、研究の進捗状況を把握する。また、これらの情報の共有、提供により、新興・再興感染症研究等の専門家（評価委員）による助言を、各研究班が適切に取り入れ、研究の推進に役立てられるよう、年度当初より、POが各研究班の開催する班会議やシンポジウムに出席し、進行管理、アドバイス、調整を行うことにより、研究事業全体の質を担保する役割を担っている。

これらの実施を通して、研究の企画・評価の方法や研究成果の活用、研究の推進の支援方法、より適切かつ円滑な評価方法の検討・改善について研究し、新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業の一層の推進に資することを目的とする。

## B. 研究方法

1. 平成28年度に新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業により実施された公募研究課題（一般公募型及び指定型）に関して、厚生労働省が行う研究の企画・評価等の支援として、以下（1）から（4）を行った。

（1）感染症研究の専門家による評価組織（以下、「評価委員」という）との連絡、情報共有等の実施。また、その活動を支援するために開発した「研究評価支援システム」の活用

（2）PO等による、研究班会議への出席及び研究の進捗状況の把握、ピアレビューの実施と、評価委員ならびに厚生労働省との情報共有

（3）新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業において実施されている研究課題を対象とした「研究発表会」の実施

（4）POの活動を支援するために開発した「班会議情報共有システム」の活用

2. 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業に関する情報収集

国内外への会議の参加、文献収集等による、新興・再興感染症研究の企画・評価及び、研究の実施に資する関連情報の収集と関係者との情報共有を行った。

### (倫理面への配慮)

本研究においては、患者等の診療情報や試料、実験動物を用いることはなく、ヒトを対象とする医学に関する指針等に関して、特に配慮すべき内容は含まないが、研究者の個人情報や研究課題内容に関する情報等を収集することから、その取扱いについては研究者等に不利益を与えないよう十分に配慮した。

## C. 研究成果

### 1. 平成28年度実施課題【資料1・資料2】の評価

#### (1) 研究の進捗状況の把握及びピアレビュー

平成28年度に新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業において研究を行う研究課題の研究代表者に対し、研究班会議開催についての情報提供を依頼し、本研究班(山内)及び2名のPOならびに厚生労働省担当者が分担して、出席可能な研究班会議に出席した。なお、開催案内を受け取った研究班会議についてはすべて出席した。

オブザーバーとして、POが研究班会議に出席し、各研究班の研究内容に関して情報収集すると共に、研究者へのアドバイスをを行い、研究班会議出席後にPOが作成した報告書を取りまとめた上で、「研究班会議におけるPO意見一覧」【資料3】を作成し、評価委員へ参考資料として提供することで、評価委員による適切な評価を支援し、研究事業の質の担保や、研究の円滑な実施に貢献した。

#### (2) 研究成果の取りまとめ

全研究課題の研究代表者に対して「成果概要」の作成を依頼し、その取りまとめを行った【資料4】。この成果概要は、評価委員による書面評価資料とした。

#### (3) ヒアリング・研究成果発表会の実施

中間・事後評価委員会開催前に、2年目研究課題及び3年目研究課題を対象に、平成29年1月18日に研究成果発表会を実施した。研究成果発表会は、評価委員によるヒアリングの場とすると共に、他研究課題の成果を共有する機会として、新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業の研究代表者及び研究分担者にも参加を案内した。また、オブザーバーとして、POならびに事前評価委員も出席した。その結果、本研究事業の各研究班における研究成果を、より多くの研究者・関係者に公表することができた。

同様に、事前評価委員会開催前に、翌年度新規公募課題に対して、平成29年2月24日にヒアリングを実施し、事前評価委員が応募課題の内容をより深く理解し、評価することを支援した。

### 2. 我が国の新興・再興感染症対策に資するよう

新興・再興感染症研究に関する情報収集として、以下(1)~(9)の会議等に出席し、各国の感染症研究機関での活動について情報収集を行った。

(1) 平成28年5月 インドネシア「第7回FE TN運営委員会会議」

渡航者：島田 智恵(研究協力者)

(2) 平成28年6月 スイス「第14回世界麻疹風疹実験室ネットワーク会議」

渡航者：駒瀬 勝啓、森 嘉生(研究協力者)

(3) 平成28年7月 マニラ「EPI TAG会議」、平成29年2月 タイ「GHSA会合」

渡航者：神谷 元(研究協力者)

(4) 平成28年9月 ベトナム「WHOベトナムオフィス訪問」

渡航者：吉村 和久(研究協力者)

(5) 平成28年11月 英国「Global Health Security Action Group-Laboratory Network会議」

渡航者：西條 政幸(研究協力者)

(6) 平成28年11月 カンボジア「TEPHINET Director Meeting」

渡航者：大石 和徳(研究協力者)

(7) 平成28年11月 マレーシア「WHO協力センター会合における薬剤耐性菌フォーラム」

渡航者：山内 和志(研究代表者)

柴山 恵吾(研究協力者)

筒井 敦子(研究協力者)

(8) 平成28年2月・3月 オランダ・スウェーデン「オランダ国立公衆衛生環境研究所・スウェーデン公衆健康局訪問」

渡航者：山内 和志(研究代表者)

柴山 恵吾(研究協力者)

(9) 平成29年3月 スイス「WHO meeting on Buruli ulcer control and research」

渡航者：石井 則久(研究協力者)

### 3. 研究の企画・評価等の支援方法の検討

#### (1) 評価支援システムの活用

これまで開発・運用してきた「研究評価支援システム」を積極的に活用し、評価業務の効率化を図った。昨年度評価委員に実施したシステム利用に関するアンケート結果を元に、評価入力、リマインド機能、データ保存等の機能改修を行い、システムの強化及び改善を図った。

## (2) 班会議情報共有システムの活用

平成26年度より運用を開始した、POと厚生労働省担当者と共に班会議の情報を共有するための、インターネットを利用した「班会議情報共有システム」を積極的に活用し、当事務局で得た班会議開催情報を、このシステムからPO、厚生労働省担当者に発信することにより、三者間の情報共有、情報交換が効率化され、各班会議により迅速に対応できるようになった。また、円滑かつ適切な情報共有や、研究の評価方法の手順について、これまで行ってきた改善方法等が各研究の推進に貢献したかに関して検証を行うために、昨年度末にPOに実施したアンケートの結果を元に、システムの機能改修を行い、強化及び改善を図った。

## (3) 感染症に係る広報活動

研究協力者の布施は、国立感染症研究所の一般公開等の場を活用し、本事業の研究に関連するアウトリーチ活動を行うことで、肝炎等に関して国民及び社会の理解増進を図った。

## D. 考察

新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業の対象となる感染症は、新型インフルエンザを代表とする発生前から事前対応を求められている感染症、ウイルス性出血熱やMERSのように重篤な輸入感染症として認知されている新興感染症、麻疹や結核、インフルエンザのように社会的な問題として認知されている感染症、多剤耐性菌や成人の百日咳等しばしば報道も成されて認知が高まっている感染症等、非常に多岐に渡っている。一般的に注目されている感染症に対する研究の推進とその成果の対応への還元が重要であることは言うまでもないが、あまり注目されていないと考えられる感染症であっても、常に基盤的な研究が継続されなければ、問題が発生した際の対応が困難であることは明白である。その時点での注目度の高低で研究の意義や重要性を判断することは難しく、特に近年は、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)や、中東諸国・韓国におけるMERSに加え、エボラ出血熱やデング熱、ジカ熱、薬剤耐性菌等の緊急の対応を要する感染症が発生している。

限られた予算と、当該研究分野における研究者のマンパワーを最大限に活用し、これらの期待に応える効率的・効果的な研究を推進するためには、新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業において、これまで実施されている研究の内容や成果を適切に把握すると共に、研究を取り巻く行政的なニーズ、国際的な研究状況に基づく企画・評価等を行い、研究を実施することが求められる。

新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業をさらに推進するためには、研究課題の適切な

設定と研究者(組織)の選定及び研究費の効率的・効果的な配分、研究課題の実施支援と適切な評価、さらにその評価を踏まえた課題の設定と研究者の選定、というサイクルを適切に回していくことが基本である。そのため、研究を取り巻く情報、研究の進捗状況や成果に関する情報及びこれらを踏まえた評価とその結果について、研究の評価者及び実施者双方に対し十分にフィードバックしていくことが重要であり、本事業において、新興・再興感染症関連研究に関する情報の収集、評価委員と研究者、行政担当者との円滑な共有や、研究事業の企画・評価及び研究の実施のための情報提供を行ったことは、本事業の推進に寄与したと考えられた。

## E. 結論

平成28年度においては、新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業で実施される研究課題の企画・評価及び研究の実施支援を行うと共に、その実施を通してさらに適切かつ円滑な支援方法等の改善について検討を行い、感染症対策の推進に資する研究の効率的・効果的な実施に貢献したと考えられた。

具体的には、中間・事後評価の参考資料となった「成果概要」、「研究班会議におけるPO意見一覧」の作成、研究成果発表会ならびにヒアリングの開催や、POが班会議に参加し評価委員に情報提供することを通じて、研究のより適切な評価に貢献したと考えている。加えて、効率的な評価に資する「研究評価支援システム」、POと厚生労働省担当者と共に班会議情報を共有する目的で開発した「班会議情報共有システム」に対し、効率的な改修・強化を行いながら積極的に活用した。

また、本事業に関連するアウトリーチ活動を行い、新興・再興感染症に対する研究等に関して国民及び社会の理解増進を図った。加えて、新興・再興感染症研究に関する情報収集として、国際会議等に参加し、各国の感染症研究機関での活動について情報交換・情報収集を行い、我が国の新興・再興感染症対策に役立てた。

## F. 健康危機情報

なし

## G. 研究発表

なし

## H. 知的所有権の取得状況

特許取得 なし

実用新案登録 なし

その他 なし